

3501 住江織物

吉川 一三 (ヨシカワ イチゾウ)

住江織物株式会社社長

中期3カ年経営計画“Global Evolution 2015”をスタート

◆2012年5月期連結業績

当期は、震災の復興需要や政府の景気刺激策による受注増があり、売上高は753億24百万円(前期比44億32百万円増、計画比13億24百万円増)となった。一方、利益面では、原材料価格の高騰やタイの洪水被害などの減益要因が重なり、営業利益は10億31百万円(同1億52百万円減、同2億68百万円減)となり、経常利益は、営業利益の減益に持分法による投資損失67百万円などが加わり、12億65百万円(同3億26百万円減、同3億34百万円減)となった。当期純利益は、タイの洪水被害による災害損失6億34百万円と有価証券評価損1億86百万円を特別損失に、洪水の受取保険金6億18百万円を特別利益に計上したことで6億26百万円(同36百万円減、同2億23百万円減)となっている。

セグメント別では、インテリア事業の売上高は前期比11億29百万円増の337億46百万円となり、期初計画も上回ったが、利益面では、原材料の高騰分を市況の厳しさや過当競争などから価格転嫁できなかったため、営業利益は前期比2億80百万円減の2億97百万円となった。高いシェアを持つ一般家庭用カーペットやラグマットは売上高を伸ばし、カーテンは、昨年からの発売した大人向けのディズニーシリーズが好評で、医療・福祉・介護施設向けの「Face」シリーズも売上高を伸ばしている。壁紙類は堅調に推移しており、節電対策に有効な遮熱機能ウィンドウフィルムが順調に伸びて一部では在庫が切れる状況になった。

自動車・車両内装事業の売上高は前期比25億20百万円増の375億58百万円となり、期初計画377億円もほぼ達成できた。しかしながら、営業利益は、タイの洪水被害の影響などで売上高の増加と比較してわずかな伸びにとどまり、前期比52百万円増の18億2百万円となった。国内の自動車用フロアカーペット事業と、帝人ファイバー(株)との合併であるスミノエ テイジン テクノ(株)から供給しているシート表皮材事業は、年度前半には大震災とタイの洪水被害の影響を受けたが、後半にはエコカー補助金制度対象車種の受注が多かったことなどもあり、回復が進んだ。また、当期はトヨタ自動車(株)のカロラアクシオのベンチレーション&ヒーター付きシートに当社の高通気ファブリックが採用された。上質感と機能性を両立させたことが評価され、トヨタ紡織(株)と共同でトヨタ自動車(株)の技術賞を受賞している。このように、高機能商品は今後の成長に向けての大きな切り口になっている。海外については、米国子会社STAが売上高・営業利益ともに前期を下回ったが、2年連続で黒字となり、収益体質となった。中国子会社SPMは、売上高が前期を上回ったが営業利益は下回った。

鉄道関連では、新造車両の大型案件が一段落したこと、大震災の影響で各得意先が予算を引き締めたことにより、シート表皮材の張り替えやシートクッション材の取替工事が見送られ、厳しい状況となった。現在は、電車やバス向けに、環境に優しい商材であるオレフィン系床材の展開を積極的に進めている。

機能資材事業の売上高は、前期比8億26百万円増の39億10百万円となった。増加率は26.8%で、計画値もほぼ達成した。利益面でも、前期の43百万円の営業損失から75百万円の営業利益となり、黒字転換した。これは、大震災以降、ホットカーペットが省エネ商品として評価され、受注台数が大幅に増加したことが貢献している。

タイルカーペットの OEM 販売は、国内が底堅く推移したが、輸出向けは円高の影響で微増にとどまった。消臭フィルターは、家庭向け空気清浄機に採用されたほか、置き型消臭商品「香りでごまかさない 本当の消臭」も順調に売上高を伸ばした。屋根の下に敷く遮熱ルーフィング材や土木分野の遮水シートといった新商材も着実に売上高を伸ばしている。

◆2013 年 5 月期計画

売上高は 810 億円で、前期比で大幅な拡大を見込んでいる。営業利益は 20 億円、経常利益はほぼ倍増の 23 億 50 百万円、当期純利益は倍以上の 15 億円を目指している。インテリア事業の売上高は前期比 2.5%増の 346 億円で、営業利益は、原材料価格の高騰に苦しんでいるが、ECOSをはじめとするオンリーワンの商品を積極的に投入して売上総利益率を改善し、4 億 10 百万円を目指す。自動車・車両内装事業の売上高は一気に 12.4%増の 422 億円まで伸ばし、営業利益も前期比 9 億円増の 27 億円を計画している。これはほとんど海外事業の拡大によるものである。株主配当については、中間、期末ともに 2.5 円とし、年間で 5 円の予定である。

◆中期 3 カ年経営計画“Global Evolution 2015”をスタート

前の中期経営計画は、大震災で前提条件となる市場環境が大きく変化したため中断し、今年 6 月から新たに中期 3 カ年計画“Global Evolution 2015”をスタートさせた。基本方針は、自動車・車両内装事業において海外展開を中心とした戦略で売上・利益の拡大を図ること、インテリア事業においてリサイクル率が世界最高水準のタイルカーペット ECOS を始めとしたオンリーワン商品を積極的に展開することである。数値目標は、最終年度の 2015 年 5 月期に売上高を 2012 年 5 月期より 100 億円多い 850 億円としている。営業利益は 29 億 20 百万円とし、以前から目指している営業利益率 3%を達成したい。中長期的な目標では、営業利益率 5%と ROA6%を目指している。2013 年 12 月には創業 130 周年、会社創立 100 周年の節目を迎えるので、次の 10~30 年に向かって成長できるように、収益基盤を固めて新しい事業にもトライしていく。インテリア事業は、国内で大きな成長は望めないが、最終年度に売上高 356 億円を計画し、営業利益は 6 億 40 百万円まで手堅く戻す予定である。自動車・車両内装事業は売上高を 445 億円まで大きく成長させ、営業利益は 32 億 60 百万円まで伸ばす。利益の伸びが大きいのは、米国とタイの海外事業会社が非常に安定して収益の拡大が望めるからである。タイの TCHS は、2012 年 5 月期は洪水の影響で 19 億円しか売上高がなかったが、今期は倍増の 38 億円を見込んでおり、米国の STA も 51 億円から 84 億円まで増やす予定である。海外事業の拡大によって、2 年目の 2014 年 5 月期には、海外グループの営業利益が国内グループを上回る見込みである。海外売上比率も、2012 年 5 月期は 14%であるが、最終年度には 22%としており、内訳は米国 88 億円、アジア 100 億円である。投資計画については、3 年合計で 40 億円を計画している。そのうち海外への投資は 16 億円程度と少なめだが、これは、すでに過去 3 年間で海外に集中的に投資を続けており、今後は刈り取りの時期に入るためである。

◆ECOS が新基準のエコマークの認定登録第一号に

昨年 7 月に発売した循環型リサイクルタイルカーペット ECOS の評判が非常に良く、クライアント、設計事務所、大手ゼネコンなどから採用していただいている。新基準のエコマークでは、いったん市場に出たタイルカーペットを回収して再生する、水平リサイクルの考え方が導入されており、廃タイルカーペットによるポストコンシューマ再生材料率 10%以上、全てを含めたポストコンシューマ再生材料比率 25%以上としている。ECOS はポストコンシューマ再生材比率を最大で 77%まで高めており、タイルカーペットで初めて新基準のエコマークを取得した。また、バックリング材の再生材料をタイルカーペットに限定しているため、安全性や品質面での信頼性が高く、重金属などの不純物が混入する心配がない。CO₂ の削減率は当社従来品と比べ最大で 43%に達する。ニッチな市場ではあるが、ゼネコン、官公庁、大手民間企業からは非常に歓迎されており、今後さらに伸ばしていきたい。

(平成 24 年 7 月 26 日・大阪)

(平成 24 年 7 月 27 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見るができます。

<http://suminoe.jp/ir/setsumeir/>